

製造業のビジネスチャンスが見える  
モノづくり最新情報サイト  
じゃぱんお宝にゅ〜す  
<https://japan.otakaraneews.com>

# じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つける  
製造業応援サイト  
じゃぱんお宝WEB新聞  
最新情報満載！好評配信中！

## KOBELCO

## コベルコ建機がグローバル生産体制再編

### 中国生産拠点を集約！インド生産拠点の生産能力増強！ 大垣事業所の生産能力を増強！年間11,500台を目指す！ シヨベル事業の生産体制再編・強化で着実な成長目指す！

#### 世界情勢見据え 新たな生産計画

K 神戸製鋼所の100%子会社であるコベルコ建機(東京都品川区、社長：山本 明氏)は、中国にある生産子会社の杭州神鋼建設機械有限公司(中国 浙江省杭州市、総経理：成瀬 隆洋氏、以下HKCM社)を、同じく中国にある製販子会社の神鋼建機(中国)有限公司(中国 四川省成都市、総経理：西岡 基司氏、以下KCMC社)に集約することを決定した。

また、インドの子会社であるKOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.(社長：平川 武通氏、以下KCEI社)のインド工場(インド アンドラ・プラディッシュ州)における油圧ショベルの製缶品生産能力を増強することを決定した。

同社は、既に本年2月25日付で発表している“北米油圧ショベル工場の譲渡”および本年4月28日付で発表した“大垣事業所における生産能力増強”も含め、これらの実行によりシヨベル事業の一連のグローバル生産体制の再編・強化が完結することになる。

世界の油圧ショベル需要は、新型コロナウイルス感染拡大による落ち込みはあったものの、先進国では概ね安定的に推移しており、中国を除く新興国需要はエリアによる高低はあるものの、引き続き安定成長が期待できるものと見込まれている。コベルコ建機においては、エリア毎の販売網強化や市場ニーズに合わせた機種・仕様の拡充などを進めることで、今後も安定的な油圧ショベルの拡販を計画している。

一方、近年世界需要の約半分を占めてきた中国市場は減退傾向が進むと同時に、中国国内メーカーの攻勢も高まり、足元で外資メーカー比率は2割程

度(2018年には約5割)まで落ち込んでいる。加えて、販売価格の低下も顕著となり、中国事業を大きな収益の柱としていたKOBELCOグループの建機事業への影響は避けて通れないものとなっている。

#### 生産・供給体制再編 及び設備投資の概要

今回のシヨベル事業おける一連のグローバル生産・供給体制再編は、中国における市場環境の変化を踏まえ、グローバルな視点で最適な供給体制に見直しを図ることで収益の安定化と生産コストの低減を実現する。

#### 中国生産拠点を KCMC社へ集約

具体的には現在2拠点(HKCM社・KCMC社)でおこなっている中国国内向けの油圧ショベル生産をKCMC社に集約する。これにより、中国における生産(組立)能力は現在の年間10,500台から年間5,500台に縮小する。併せて、HKCM社の有していた製缶品の供給能力を、一部をKCMC社(インド子会社)に移管し、残りの多くは後述するインド工場へ移管する。段階的に移管を進め、2023年1月頃の移管完了を予定している。中国における生産能力を事業環境に即した規模に見直し、固定費を削減することで収益の安定化を目指していく。KCMC社集約関連費用は約60億円、2023年1月完了予定している。約60億円のうちほとんどが、HKCM設備等の処分コスト、および拠点集約に伴う費用に充てられる。

#### インドKCEI社 生産能力増強

本計画ではインドの子会社であるK

OBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.(KCEI社)の生産能力を増強していく。

コスト競争力のあるKCEI社を新たに油圧ショベルの製缶品の供給拠点と位置づけ、製缶品の生産能力を足元の年間3,000台から年間4,700台まで高め、主としてコベルコ建機タイ工場(KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY SOUTHEAST ASIA CO., LTD.)への供給拠点とする。設備投資額は約12億円、2024年4月完了を予定している。

さらに、KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.(KCMU社)の北米工場を譲渡する。

#### 米国子会社 KCMU社 北米工場を譲渡

コベルコ建機の米国子会社であるKCMU社の北米工場は、エンジンの認証問題により2021年5月より稼働を停止しているが、同工場を株式会社竹内製作所に2022年4月15日約39.5億円で譲渡した。

また、北米工場で生産していた油圧ショベルは五日市工場に生産を移管し、競争力を高めていく。

さらにコベルコ建機は、大垣事業所の生産能力を増強し、国内での生産台数を高めていく。

同社は大垣事業所内に、年間3,000台の能力の油圧ショベル組立ラインを新設する。これにより、生産能力を現状の年間8,500台から年間11,500台まで高めていく。

#### 国内の生産能力増強 年間11,500台目指す

新設する組立ラインは、広島事業所五日市工場の生産メニューである7tクラスと大垣事業所の既存ラインで生産していた5tクラスの2クラスの組立



専用ラインとすることで、五日市工場との補完体制を構築し、台数変動に応じた柔軟な生産を可能にする。

また、組立ライン新設に併せて同事業所の製缶品の供給能力も増強する。大垣事業所の生産能力増強については、設備投資額約34億円、2023年8月完了を予定している。

#### グローバル生産体制 再編による効果

今回、中国事業の事業最適化を確実に実行することで、高需要エリアに対する生産能力増強、インド事業の収益体制強化を実現することで、年間100億円規模(すべての投資が完了する2024年度以降)の収益効果を見込んでいる。

コベルコ建機は“ユーザー現場主義”に基づき、更なる技術の発展に努め、商品価値の提供を目指すとともに、その礎となる製販が連動した高度かつ安定した事業運営を目指していく。

KOBELCOグループは、今後も「安全・安心で豊かな暮らしの中で、今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界」を実現するために、個性と技術を活かし合い、社会課題の解決に挑み続けていく。

(※資料提供：神戸製鋼所)